＜こんにちは「宇治市長」＞

文化と先端産業で宇治市の未来をつくる

久保田 勇 氏（宇治市長）
木村幹雄 氏（連合京都会長・自治労京都府本部執行委員長）
司会／谷口富士夫 氏（京都自治総研専務理事・自治労京都府本部書記長）

谷口　現在、宇治市では観光政策に力を入れておられますね。特に今年は「源氏物語千年紀」として、さまざまな催しも企画されています。平安文化を色濃く残す宇治市として、どのような文化や観光行政を展開されるのでしょうか。

観光ゾーンの拡大で観光客500万人構想の実現

久保田　これまで宇治市では「お茶と観光のまち」をキャッチフレーズにしてきましたが、今は「宇治茶と源氏ロマンのまち」にポイントを絞っています。「源氏物語」は世界を代表する文学で、54分の10が、宇治が舞台です。平安文化が色濃く残っている町なんです。

宇治の人に自慢して欲しいのは、日本国内に1800ほどある市町村の中でも、お金のデザインに3つもなった町は1つもないということです。一番古いのが10円玉で「平等院」。2000円札は「源氏物語絵巻」、1万円札の「平等院の鳳凰」。今年から「地方自治法施行60周年記念」として、各都道府県から1000円銀貨が発行されますが、秋には京都府、北海道、島根県の3道府県から出ます。その1000円銀貨に「源氏物語」に因んだデザインが入ると、4つめになります。

「源氏物語ミュージアム」は1998年につくりました。梅原猛さんや瀬戸内寂聴さんの働きかけに宇治市が飛びついた。それからは文学賞ができたり、ミュージアムもできた。道も「源氏の道」として整備しやすくなりました。観光客も増えています。10年ほど前は370～380万人でしたが、これを500万人にしよう思っています。京都市は5000万人構想を打ち立てていますが、人口が京都市の10％の宇治市は500万人でいこうと。この3月までの観光客数は、500万人に若干届きませんでしたが、2008年度は達成したいですね。

今年は「源氏物語」が生まれて1000年になる記念の年で、瀬戸内寂聴さんなどの文化人や

経済人も入った「源氏物語千年紀委員会」ができています。さまざまなイベントがすでに取り組まれていて、4 月の観光客数も増えています。1 度宇治に来られた方にもまた来てもらおうと、ミュージアムの展示内容を 9 月にリニューアルします。映像も、今は「浮舟」に焦点を当てていますが、9 月からは「橋姫」との 2 本立てを考えています。海外のお客さんも増えてきましたので、中国語、英語、日本語の 3 カ国語で見られるようにしています。

木村　宇治には黄檗山萬福寺がありますね。江戸時代に中国福建省から渡来した隠元禅師が開創した寺で、名前も中国萬福寺にならったと聞いています。黄檗宗の大本山で、明朝様式を取り入れた伽藍が美しいですね。中国からの観光客も多いのでしょうか。

久保田　寺院も立派ですし、宝物の価値も高いのですが、「源氏物語ミュージアム」と距離が少し離れているので、周遊的に行けるよう、北にも観光ゾーンをのばそうと思っています。

　もう一つ、去年の夏、京阪宇治駅の真横に太閤堤が発見されました。日本の河川土木の草分けとなる貴重なもので、この堤が築かれたことで、宇治から八幡、枚方、大阪の町並みの骨格が決まったと言われるくらい価値があるものです。急流が直接に当たらないよう石出を設けたり、護岸には装飾用の板石が貼られて、きれいです。入り江も発掘が進んでいます。さらにこの真横には、菟道稚郎子（ウジノワキノイラツコ）の古墳もあります。この人は仁徳天皇の異母弟で、応仁天皇の後継者第 16 代天皇を決める際に、兄貴をさしおいて天皇にはなれないと自害した人です。古墳は宮内庁が管理していますので難しい面もあるのですが、太閤堤が史跡指定されて古墳までつながれば、古墳時代から奈良、平安、秀吉の時代まで体験できる観光地ができます。秀吉は武家茶道の創始者で、釣瓶で宇治川の水を汲んで茶を点てたという故事が残っていますので、宇治茶とも関連づけて、観光の新拠点にしたいですね。

木村　源氏物語ミュージアムも含めると、ぐるっとまわれて、面的に広い観光地になりますね。今、「健康」がテーマになっていて、4 月からはメタボ健診も始まります。健康にはまず運動がいいということで、できるだけ歩こうという人が増えていますが、面的に広いと歩いて楽しみながら観光できるし、リピーターも増える。そのうえ交通量の減少につながれば、観光都市「宇治」の大きな魅力の１つになりますね。

久保田　4、5 年はかかるけど、100 年先に「よく残しておいてくれた」と言われるように、今年から検討委員会を立ち上げて、史跡指定の申請をしながら、構想を練っていきます。

　宇治は、春の桜が有名ですが、秋は興聖寺の紅葉以外は取り上げられられないんです。興聖寺は宇治川沿いから山の方に参道が伸びているお寺で、紅葉のトンネルがきれいです。しかし奥にあるため外からは見えない。平等院や源氏物語ミュージアムに行っても、興聖寺は見えない。市の木は「いろは紅葉」ですから、宇治川の平等院の対岸側の川沿いに、雑木を植えかえて紅葉のトンネルをつくろうと思っています。「源氏物語」では、宇治は貴族が秋に優雅に遊びに来る場所です。京都が春のイメージとした

ら、宇治は秋のイメージでやろうと、今年からどんどん植えていきます。

そんな話を職員にしていたら、椿の品種は何千種類もあって、源氏物語に出てくる光源氏、空蝉、紅葉賀、浮舟、匂宮、若紫、さらに紫式部という品種まであると教えてくれました。それなら宇治上神社からミュージアムに至るあたりを「源氏の椿の道」として、冬場の花のない時に椿を咲かせる。プレートは、お姫さんやお公家さんが扇を持っている格好にして楽しめるようにする。2008 年の予算が決まる頃では遅いので、2 月頃から椿の苗の確保をしてもらっています。年間を通じて観光に来てもらおうと思っています。

実感がともなわない景気拡大

谷口　現在、地方自治体は相当に厳しい財政状況ですね。予算を減らす自治体もたくさんありますが、椿の植樹予算の確保はできましたか。

久保田　予算は議会で OK をもらいました。しかし、日本では分権を進めているといいますが、仕事だけはどんどん回ってきて、財政的に自立できていない。三位一体改革で、補助金を 4 兆 7000 億円切り、去年から所得税を市民税に 3 兆円相当を置き換えました。4.7 兆円切って 3 兆円入る。この間、地方交付税は 6 兆 7000 億円減らしてきています。地方にしてみると、7 兆円以上が負担となっています。

谷口　宇治市の 2008 年度一般会計予算は、545 億円、1.6 %増えていますね。今年は交付税も少し増えたようですが、宇治市ではどういった理由で歳入が増えているのでしょうか。

久保田　増えたと言っても若干です。国ではイザナギ景気を超えて最長の景気拡大と言っていますが、イザナギ景気では 10 %から 20 %、経済成長しました。今は 0 %台から 1 %台。景気拡大といっても規模に差がある。しかも京都南部は中小企業が多い。首都圏や東海地方は実感できても、ここでは実感がない。景気回復を実感できないままに、円高、原油高で景気が失速しそうです。税収面で増えているのは市民税、一番大きいのは法人市民税です。

木村　宇治市の法人市民税で占める割合が高いのは、大企業の工場があるからですね。どこの自治体も住民の雇用と税収の面から企業誘致に取り組んでいますが、宇治市の場合は、すでに大きな、それも世界的な企業がありますね。

久保田　世界的企業は輸出比率が圧倒的に高い。幸い宇治にある企業の収益はどんどん拡大していますが、問題なのは為替レートです。円が 1 円、円高に振れると、税収は約 8000 万円落ちます。去年の秋は 1 ドル 110 円くらいでした。円が 10 円上がると 8 億円減る。宇治市にある企業の製品を買うときは、是非、国内で買って下さいと言っています。円高になると上海や香港で安く買えても、宇治市は大損です。

頭の痛い、福祉予算の確保

木村　医療費の財政負担抑制を目的として創設された「後期高齢者医療制度」の導入で、国民健康保険会計は助かると言われていますね。この制度は、75 歳以上の高齢者だけを独立させ、保険料は世帯負担の国民健康保険と違い、個人負担。年金が年額 18 万円以上の高齢者は、年金から保険料から天引きされ、滞納の心配もないようですが、市町村としては財政的に助かっていますか。

久保田　実情は、市町村の実務量は全く減って

いません。後期高齢者医療制度では、京都府レベルで広域連合をつくって、そこに人を派遣しています。そこの運営費は、市町村の持ち出しです。ところが市町村の国民健康保険事業が減るかというと、何も減らない。一番困るのは国保料の滞納です。宇治市の収納率は昨年は 92 %でした。年代別でみると 75 歳以上は 99 %を越えています。高齢者は病院にかかる率が高いので、保険証がなくなると困る人が多いため、収納率が高い。この層が宇治市で 1 万 3000 人くらいです。その人たちがゴソッと抜けると、収納率は 80 数%と、かなり落ちる。

さらに、国保会計には通常の補助金制度以外に優良国保運営者への交付金があります。京都府では約 10 市町村に支給されていて、そのなかに宇治市が入っています。額は年 1 億 5000 万円になります。この交付金の最低条件は、収納率が 92 %を超えていること。宇治市は今後、収納率が 89 ～ 88 %まで落ちますので、この 1 億 5000 万円がなくなります。

木村　そうした一般的にはわからい財政上の問題があるのですね。その交付金がなくなるとしたら、どういった影響が出てくるのでしょうか。

久保田　頭が痛いのは、この 1 億 5000 万円分を一般会計から繰り入れるかどうかということです。社会保険など他の健康保険に加入している人にしてみたら「一銭も補助してくれないのに、なんで国保へわしらの税金を入れるのか」ということになる。ただ、低所得者や高齢者が多く基盤が脆弱だという理由で、何とか投入を認めていただいていますが、今後それができなくなったら……。

木村　社会保険など他の健康保険加入者に税金の投入を認めてもらうためには、国保の加入者にも負担を求めることになりますね。そうすると、ますます滞納者増えるという悪循環になる可能性がありますね。

久保田　1 億 5000 万円を国保加入者の 6 万人で割ったら、1 人年間 2500 円上げないといけない。半額を一般会計で出すと、一般会計から 7500 万円さらに出すとことになります。

障害者自立支援法でもそうですが、「国の制度が悪い」と言って、住民の防波堤である市町村は何もしないわけにいかない。「国に制度を変えさせるため、半額は行政、半額は当人に痛みを感じてもらう。その傷みを国にぶつけてください」として、半分程の助成をしています。地方自治体ではどんどん負担が増えていくばかりです。

宇治市の高齢化率は 18 %で、全国平均 21 %からみれば若い自治体ですが、人口の 17 %を 55 ～ 64 歳の世代で占めています。その人達は 10 年たつと間違いなく 65 歳以上の高齢者になる。仮にそのうち何らかの理由で 1 %減ったとしても、16 %は確実に高齢者になります。したがって 10 年後の高齢化率は 33 %から 34 %、住民の 3 人に 1 人は 65 歳以上のお年寄りです。

市民税も減ります。0 ～ 21 歳までの教育を受けている世代と、65 歳以上の年金が少ない方、働いていない主婦等を除いていくと、宇治市の人口 19 万 3000 人のうち市民税を払う義務のある人は 8 万 4000 人です。半分以下。今の高齢化率 18 %の段階で、1 人の市民税で 2.2 人支えています。それが 35 %となると、ほぼ倍の 1 人で 4 人を支えないといけない時代が、10 年先に確実に来ます。

日本として、アメリカ型の低福祉・低負担をめざすのか、北欧のように所得税 50 %、消費税 25 %という高負担・高福祉をめざすのか。日本の世論は低負担・高福祉です。だから僕らは中負担・中福祉をやっていくしかない。

住民の力が支える公共サービス

谷口　自治体財政はますます縮小することが予想されています。財政的に厳しくなれば、これ

までやっていた公共サービスを、今後も同じように提供することはかなり難しくなります。しようと思ってもできない。これからは、住民に理解を求めながら、地域の人やＮＰＯの力を借りて、公共サービスを提供するという方向に転換していく必要が生まれています。つまり「新しい公共サービス」の確立が必要となっていますが、その点は、宇治市としてどのように取り組まれていますか。

久保田　福祉の水準を落とすのはすごく難しい。ある程度は、かかる費用を分担してもらうしかない。しかし、全額というのもなかなか理解が得られません。そこで公共的サービスの分野で、空いた時間をボランティアなど使っていただくことを考えています。

指定管理者制度では、地域福祉センターやコミュニティセンターなどの地域施設については、その地域の協議会に運営委託しています。「丸投げ」という批判もありますが、行政が責任をもつサービスの範囲や事業主体のあり方などを、地域から見直してもらうきっかけになると思っています。運営では、行政の押しつけにならないよう、自主性を尊重しています。ボランティアも有償で、多くの収入を得られないけれども最低運営できるくらいの費用でお願いし、地域の力になってもらっています。

谷口　宇治市では、今年の3月にボランティアセンターを設立されました。社会福祉協議会が中心となり、ボランティアグループや地域協議会など約50団体で構成されているそうですが、設立の目的は、災害時の支援が中心ですか。

久保田　特に地域力が重要なのは防災です。災害時に行政が完全な体制を整えるには、72時間ないとできない。1日めに立ち上がれる分野はあっても、すべて機動できるのは3日め、72時間後です。町内会ごとに自主防災組織を作って、避難ルートや避難方法、安否確認などのマニュアルを作成してもらっています。現在、全町内会の2割くらいにできています。

計画をつくるなかで、避難経路の途中にある建物が老朽化し、地震の時には潰れてい使えない所があるなど、現実的な問題点もわかってきました。マニュアルを作る上で壁になったのが個人情報です。支援が必要な障害者や高齢者のリストを、行政が出していいかどうか。結局、情報公開審議会にかけて、目的を限定して本人の承諾があれば出すことは差し支えないという答申をもらいましたので、町内会で組織をつくったら、そこには情報を渡していきます。そうしないと、意外に隣の家の家族構成を知らない場合がある。そういうことを、今、危機管理課が一生懸命やっています。この間もハザードマップの改訂版をつくりました。難しいのは、関西は地震に対する意識が薄いんです。

木村　1995年の阪神・淡路大震災では、自治労からはボランティアに行きましたが、現場に行かなくても、多くの人がテレビなどを通じて悲惨な状況を目の当たりにしました。家庭では、家具を固定したり、食料品の備蓄をしたりと、防災への意識が高まったと思ったのですが、13年も経つと、忘れてしまうのでしょうか。

久保田　皆、忘れているようです。阪神・淡路大震災の時、市内のスーパーや小売店からはポリタンクがなくなりました。ポリタンクで水の備蓄をした。それから6年たって、宇治市で断水事故が起こったのですが、給水車にポリタンクを持って来た人は1人もいませんでした。水をためておくはずのポリタンクが、灯油用に変わっていた。ワンルームマンションに住む人には、バケツが無いのか、ペットボトルを持ってきた人もいました。それでは顔も洗えません。

今後は、生活道路の整備と産業育成が課題

谷口　市長の任につかれて3期11年半が経ち

ました。その間、外からは社会情勢や経済の変化によって、内からは住民ニーズの変化によって、自治体はさまざまな課題に迫られてきたと思いますが、市長として、実現できた政策や、今後充実したい施策をお聞かせ下さい。

久保田　一般的に首長は、4 年ごとに期末テストがありますので、4 年めに成果としてテープカットしたい。公共施設だと「福祉会館をつくります」と選挙で言い、当選したらすぐに用地交渉に入り、1 年で買えたら次の 1 年で設計に入る。3 年めに建てたら自分の選挙直前にテープカットできる。「ハコもん」が多いというのは、それなんです。道路は用地交渉に時間とお金がかかるから、あまりやりたがらない。

私が宇治市長になった当時、議会の皆さんに、宇治市民 19 万人に見合う公共施設はほぼある。福祉施設で必要な施設は造るけれど、もっとあった方が便利というのは、一切言わないで欲しいとお願いしました。そのかわり、宇治市として長い間の懸案事項であった道路問題を徹底的にやる。合わせて、遅れていた下水道の整備。道路を造る時に下水道をセットするのが一番効率的です。下水道には毎年数十億円かけて、10 年で全国平均に追いつきました。主だった幹線道路もおおむね、完成しました。今年は、大久保の京都府道も工事に入る予定です。

次に必要なのは、生活周辺の道づくりです。宇治市には近鉄、京阪、ＪＲ、地下鉄の鉄道駅が 14 ある。、すごく便利そうだけど、決してそうじゃないですね。鉄道の駅と地域とを、公共交通でどう結ぶかが、高齢化時代になるとますます重要になります。

さらに産業の育成に力を注ぎたいと思っています。宇治市は昼間人口が 0.85 くらい。京都南部で昼間人口が夜間人口を上回っているのは久御山町だけです。宇治市では、通勤と通学で 6 万人弱が市外に出て、市外から宇治市に来るのは 2 万 7000 人ほど。いかに南部の人を宇治で受け止めるかが課題です。今、工業団地の造成や、産業振興を一生懸命やっています。日産の移転は、南京都信用金庫が破綻したのと同じ、2001 年 1 月です。あの時すでに、産業振興計画を持っていたので、早い対応ができた。宇治市には、大正から昭和初期にかけて繊維産業が花形だった時代に、日本レーヨンがありました。当時の従業員は 6000 人。宇治市の人口が 3 万 8000 人の時ですから、すごい規模です。日本レーヨンが宇治市を引っ張っていった。繊維が東南アジアに押されだすと、今度は日産、松下という三種の神器を作る企業が、宇治の経済を支えた。その次にゲーム機の任天堂がやってきた。これらの企業は、宇治市が意図的に誘致したわけではなく、タイミング良く、時代をリードする企業が来てくれました。

今後は、バイオ、ナノテク、公害問題に対応した頭脳型企業の生産拠点が必要だと考えて計画を策定している時に、日産の移転話が持ち上がりました。その 5 万坪の土地を産業振興に生かすため、京都府や久御山町、日産グループなどと一緒になって「日産車体京都工場跡地等・企業立地推進プロジェクト協議会」を立ち上げ、企業誘致に力を入れています。銀行が潰れ、メイン企業が出ていったのに、短期間でよくやったと言われますが、京都府や日産が協力してくれたお陰です。現在 34 社が操業しています。まだ税をどんどん納めてもらうほどにはなっていませんが、将来のための種まきです。

木村　テレビでは「源氏物語千年紀」が盛んに取り上げられ、宇治に注目が集まっています。産業面でも、大企業の移転というマイナスを、先端産業の育成というプラスに転嫁され、宇治市が発展する土台をつくられていますね。今後とも、京都南部をリードする宇治市として、ますますのご活躍を期待しております。

谷口　今日はお忙しいところ時間をとっていただき、どうも有り難うございました。